

6) 満足感

アメリカ人エリート達は何にどの程度満足しているのでしょうか。彼らの満足感を8項目にわたり質問した。回答は1=大変不満足から7=大変満足までの7段階である。表1は各項目の平均である。

表1 満足感の平均

家族満足	4.10
友人満足	3.93
仕事満足	3.76
会社満足	3.50
給料満足	3.20
上司満足	3.45
同僚満足	3.71
福利厚生満足	3.41

最も満足感が高いのは家族である。次に高いのは友人である。その反対に最も満足感が低いのはやはり給料である。次に低いのは福利厚生である。仕事に関係のない家族や友人には満足しているが、会社内の人間関係、特に上司に満足している人は少ないようである。給料に不満を持つのは万国共通の現象である。男女別にみるとあまり大きな差はないが男性は家族、仕事、会社には女性より満足しているが、女性は上司、同僚、福利厚生には男性より満足しているようである。給料と友人満足においては男女差はみられない。

では次にどの程度幸福感を感じているか聞いたら「大変幸福である」と回答したのは24.1%で、最も多いのは「かなり幸福である」という回答であり62.3%を占める。「全然幸福でない」という回答も10.9%ある。「大変幸福である」というのは男性の方が女性より多く、「かなり幸福」というのは女性の方が多い。

では家庭と仕事との間に問題はないのであろうか。「少しはある」という回答が最も多く45.5%を占める。「全然問題はない」という回答は38.6%である。「大変ある」という回答は少なくとも5.9%だけである。しかし、全然問題はないという者は男性の方が多く女性は問題を感じている場合が多いようである。やはりアメリカでも家事の負担は女性の方が多く感じており働く女性にとっては仕事と家事の両立は大変なのである。

最後に「社員の満足感を高めるためには会社はどのようにするのがよいと思いますか」という質問をした。これは業績評価をどのようにしたら社員が最も満足するかという質問である。それに対し「業績評価や比較をし各自により面と悪い面の両方を知らせる」のがよいという回答が男女共に最も多く77.7%を占める。よい面または悪い面だけを知らせる方法は好まれないようである。もちろんよい面だけを知らせる方が悪い面だけを知らせるより好まれてはいるが、また、そのような業績評価はしない方がよいと考えている者も8.2%いる。

7) 人生観

では最後にアメリカ人エリート達の人生観についてみてみよう。12項目についてどのように考えているのかを質問してみた。まず最初に「人生において手に入れたいと思っている物をどの程度手に入れていると思いますか」という質問に対し「ほとんど手に入れている」という回答が23.2%で「かなり手に入れている」は60.9%でこの2つを合計すると84.1である。さすがエリートである。手に入れたいと思っている物はほとんど手にしているようである。「全然手に入れていない」という回答はたったの2.3%だけである。しかし、女性の方が男性より「あまり手に入れていない」という回答が多い。やはり女性はこの点に関しても不利な立場なのだろう。女性と男性とでは手に入れたいと思っている物が違うかもしれないが、たとえばさらに高い地位を手に入れたいと思っても女性は男性より先にレイオフの対象になるし、グラス・シーリングがあるのでそれ以上高い地位にはつけないのである。

次に「友人を持つことはよいことである」という考えには57.8%が賛成している。しかし、大変不賛成の者も22.7%いるのはどうしてであろうか。友人でも悪い友達なら持たない方がよいと考えているのであろうか。この考えに男女差はみられない。

「協力作業より単独の仕事を好む」という項目に関しては32.7%が賛成しているが、「どちらでもない」という者が30.5%おり「わからない」者も22.7%いる。やはり個人主義のアメリカ人は日